

「研修会等名称」

私情協 FDのための情報技術講習会

場所：大阪経済大学 F 館

期間：2009年3月11日(水)～13日(金)

1. 研修の内容

1 日目

- ファカルティー・ディベロップメントと IT の活用<講義>
- 年間の授業計画 ～授業スタイルと IT～<講義>
- シナリオ設計を重視した授業事例紹介
 - ・ 会計学：事前事後学習に e ラーニングの手法を授業に組み入れている事例
 - ・ 経営学：現場情報の提供を映像コンテンツにより行い、意見や感想を通じて主体的な学習を実現している事例
 - ・ 機械工学：学生の習熟度別にオンデマンドの授業を Web 上に構築し、ネットワーク上で個別指導を実現している事例
 - ・ 建築工学：Web 教材のシュミレーションと講習用 Web 教材を用いて現実感覚を備えた理解を可能にし学習の動機付けを実現している事例
- 1 コマの授業シナリオの設計<演習>

2 日目

- 授業における IT 技術の活用<講義>
- 授業シナリオのピアレビュー ～新たな気づきを得るために<討議>
- コンテンツ作成技術の実習<実習>
 - A. Flash コース
 - B. Web 作成コース

3 日目

- コンテンツ作成技術<演習>
- 総合実習<実習>
- 全体発表

事例紹介のほか、講義形式の研修が主。シナリオ作成とピアレビューでは、学系別グループ分けがなされたが、30名を超えるグループであり、実のあるレビューは得られなかった。

教材作成技術では、Flash コースに参加し、テキストに基づいての例題演習を行った。基本的な作画や Flash 動画の作成法などのほか、ActionScript の代表的なコマンドスクリプトが紹介され、数個の例題に従った課題演習を行った。60名の参加者があり、それぞれの情報スキルも多様なため、アシスタント学生らのサポートも困難であった。

全体発表で紹介された Web 作成コースの作品でも、研修前に作成済みの教材 Web ページを再構成したのも目立った。Flash コースの作品は、各自のシナリオに沿った作品は乏しく、時間不足とともに、プログラミング技術の基礎理解不足がうかがえた。

総じて、技術研修としては、時間配分とともに、講義や事例紹介と技術実習の関連性について、参加者からも研修内容の改善意見があった。

2. 研修の成果

Flash による動画教材作成手法としては、次の機能があることが理解できた。

- ・モーションガイドによるアニメーション
- ・ボタンへのアクションスクリプト配置による動作切り替え
- ・ロールオーバーによる表示切替
- ・アクションスクリプトによるテキスト入力判定
- ・アクションスクリプトによるラジオボタン判定
- ・アクションスクリプトによる乱数シミュレーション

これらを適切に組み合わせれば、動画とテキストを組み合わせた教材コースウェアを作成することができる。

実習では、テキスト入力問題と、ラジオボタンによる選択問題を2問作成し、スクリプトによる正誤判定を行った。

一方、アクションスクリプトによるプログラミングには、多くの関数やコマンドを理解する必要がある。また基本的なアルゴリズムと、オブジェクト指向のイベントドリブン技法を理解する必要がある。

各自の授業シナリオに基づいて、教材を作成するには、全面的な Flash 化ではなく、小さなコンテンツを、必要に応じて Web ページなどの LMS に配置することが望ましい。LMS における教材コースウェアの作成には、専門の業者に委託するなど、十分な教材設計と予算措置が不可欠であるといえる。

3. 授業への研修成果の反映状況

LMS 等における教材作成における、Flash によるパッケージ化を検討していたが、簡易なツールソフトなどでは対応できず、綿密なプログラミング設計と実装が不可欠であることがわかった。むしろプレーンな HTML による教材の中に、部分的に Flash 動画を加えて、効果的な表現とすることを検討している。

Flash 動画による表現は、表現力が高い反面、メンテナンス性は低い。このバランスを考慮して設計する必要がある。

一方、Flash ソフト自体を用いて、学生たちに動画アニメーションを作成させることは、十分な学習題材となりうる。従来のアニメーションだけではなく、発展学習としてアクションスクリプトによるプログラミング課題を与えることも検討している。派手なアニメーションだけに満足せず、インタラクティブな動きを加えるには、適切な題材であると思われる。

マルチメディア表現や Web デザインなどの授業科目に、Flash 動画の作成課題を取り入れていく。

学部長	FD委員長	FD委員会	企画・広報課長	係